

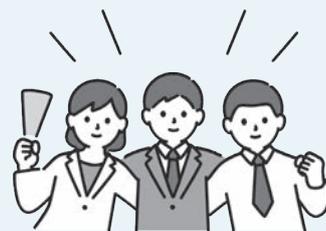
東海村で働きますか？

参加費無料

事前申し込み不要

「東海村合同就職説明会・面接会」

村と東海村商工会および原子力人材育成・確保協議会では、村内で仕事を探している方と、村内に事業所を持つ企業とのマッチングイベント「東海村合同就職説明会・面接会」を開催します。新卒、既卒、転職をお考えの方など、どなたでも参加できます(高校生を除く)ので、この機会にぜひお越しください。



期日▼10月7日(木)

時間▼午後2時～3時40分(午後1時40分受付開始)

場所▼東海村産業・情報プラザ「アイヴィル」

参加企業▼村内に事業所を持つ企業(約10社を予定)※詳細は、村公式ホームページをご覧ください。

その他▼▽面接を希望する方は、ハローワークへの求職登録が必要です(当日、会場受付で仮登録可能)▽雇用保険の「求職活動実績」になります。▽新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となる場合があります。

問い合わせ▼産業政策課産業政策推進担当(☎282-1711 内線1268)

ふるさと歴訪
〜歴史を再発見〜

大森信英先生と東海村

大森信英先生は、大正13(1924)年11月に水戸市で生まれ、平成25(2013)年4月に亡くなった考古学者です。

先生は、県立水戸中学校から茨城師範学校に進み、卒業後、市内の中学校の教師となりました。数年後、國學院大學文学部に編入学し、大場磐雄博士の薫陶を受けて考古学を修め、帰郷しました。そして、茨城高校、県立麻生高校、県立太田一高で後進の指導に当たりました。その後、茨城県教育委員会に移り、県内の原始・古代遺跡の保存に奔走されました。

先生はその間に「茨城考古学会」を創設し、さらに茨城県教育財団調査課を組織しました。上高津貝塚(土浦市)、大串貝塚(水戸市)、虎塚古墳(ひたちなか市)等を国の指定文化財に導き、筑波学園都市、鹿島臨海工業地帯、常磐自動車道内の遺跡調査を、先頭に立って実施しました。まさに、茨城県における「考古学の父」といっても過言ではありません。

先生と東海村の関係は深く、昭和30(1955)年の石神村と村松村の合併以前から交流がありました。記録によると、昭和26(1951)



【「常陸國村松村の古代遺蹟」】

年1月から舟塚1号墳の土砂採取が始まり、教育者であった当時の川崎義彦村長は、その調査を茨城高校教諭であった大森先生に依頼しました。先生は翌年から3年をかけて、村松村内の考古学的遺跡の所在を把握するための悉皆調査と、貝塚の一部発掘調査、古墳測量・一部発掘調査を実施し、昭和35(1960)年5月に「常陸國村松村の古代遺蹟」(写真)を刊行しました。その成果を基に、東海村教育委員会は村民に原始・古代の遺跡の所在場所を知らせるため、各遺跡に標柱を建てて周知を徹底させました。

この研究成果が、当時日本における原子力発電を推進する研究施設の誘致に立候補していた東海村を有利にしたことは周知の事実であり、川崎村長と大森先生から拝聴したことを記憶しています。現在の東海村の発展を理解する上で、先生の研究は大変重要な意義を有しているのです。先生は、私がその後、村内で遺跡の発掘調査を実施するたびに現場に見えて、ご指導くださいました。その最後は、平成17(2005)年の真崎5号墳の調査でした。

國學院大學客員教授

茂木 雅博